

## 講演者・報告者の方々からの感想

## 堀内光子 (ILO 駐日代表) (記念講演・第9分科会)

冷戦崩壊の前後に国連との仕事をしてきた者にとって、冷戦の崩壊は、これから本格的に、現実に即した人々を中心に据えた開発問題への取り組みができる状況をもたらしたと思いました(今まで、あまり実際の解決には役立たない理論闘争が多く見られたためです)。今度の2つの全国集会に出席して、そのときの思いが蘇り、日本にも大きな変化が起こっていると感じました。

それは、人々のイニシアチブによる協同の力でした。もう一つ重要なことは、「仕事」は楽しいといえることです。ややもすると「働くこと」は、「搾取」、「差別」といった(もちろんこうしたことは今でもあって、その撤廃に向けての活動は重要であります。)イメージになりがちですが、働く人々の創意と情熱が伝わってくる、いきいきした働き方がたくさんコミュニティーにあるとの発見に、とても勇気づけられました。そうした「働き方」、「仕事」がもっと認められ、広がり、かつもっと働きやすくなるよう、今後もお手伝いさせていただきたいと思っています。

## 前田喜恵子 (コープ生活クラブ船橋介護ステーション) (第3分科会)

集会では沢山のことを学ばせていただき、ありがとうございました。発表させていただくことで、自分が走り続けている業務を中間報告させていただいたような感があります。

話を準備する中で、手さぐりでしている事を、自分自身で総括することができ、又、

皆様の前で話す時に手ごたえを感じ、エネルギーをいただいて帰ることができました。

介護の仕事の広さと深さ、難しさを感じつつも、ともに活動しておられる方々のお顔を見ながら、「協同」の力の強さを感じました。

## 森口弘美 (たんぼぼの家「ケアする人のケア」事務局) (第3分科会)

いま「協同」を拓く2002全国集会 in 千葉に報告者としてお招きいただき、ありがとうございました。

「ケア」をテーマにした分科会3に参加をさせていただきましたが、ケアとはまさに私たち自身の手で主体的に作っていくものだと思います。

これまでのような制度によって提供され、保障されるものとしての介護ではなく、協同という言葉のもつ真の意味を深めながら新しい時代のケアを総合的に組み立てていければと思います。

私どもの団体(たんぼぼの家: <http://popo.or.jp>)でも、運動・活動をすすめてきております。今後も良い意味で刺激しあっていければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

## 関根 緑 (千葉県肢体不自由児・者父母の会) (第5分科会)

私は「協同労働」の協同組合のことは不勉強で、よく知らぬまま、千葉県肢体不自由児者父母の会連合会より依頼され、発表致しました。ああいった場に不慣れなため、自分の主張が十分に伝わったのか疑問が残ります。

全体の感想としましては、各方面からの発表は、よく分かり、大変勉強になりました。しかし、午後の討議に関しましては、焦点が定まらず、ちぐはぐな感じが致しました。話の進め方として、ある程度、テーマをいくつかにしぼり、それについての討議をする形の方が、盛りあがったような気がします。

#### 山下和子 (NPO あゆみかん) (第5分科会)

ひとことで感想を述べるならば、『とても内容の濃い、すばらしい会でした。』

どうも私達福祉(特に精神障害者は、医療が主流であって、福祉の対象と位置づけられてからも、まだまだ他障害からの遅れもある状況です。)関係者は、労働という視点から、物事を思考する部分が乏しく、1日目のそれぞれの方々のお話しが、新鮮であり、1人ずつのお話しをもっとじっくり時間をかけて聞きたかったというのが本音です。

はじめて「人を大切に、協同労働等」聞く者にとっては、かなり充実はしていましたが、大変でした。(知人の看護学部の教授も同様の感想を持たれたようでした。)

2日目に関しては、それぞれの方々の課題の共通性や、その課題解決の方向性と労働連や協同労働などのかかわりが見えずに残念でした。正直言って、いろいろ聞いてみたい分科会がたくさんあり、参加できないのが心残りでした。尚、障害者当事者を含められた方が生き生きとした会になったのではないのでしょうか。

総評として、とても共感する思考であり、もっと広く福祉(障害者の分野でも)関係への広報が必要と思います。しかしやりかたの問題はあるかも知れませんね。

IL0の堀内さんや知人の教授とも話しましたが、「仕事おこし」公開講座でもあるといいなあという意見を付け加えさせていただきます。

#### 宮前真理子 (NPO コレクティブハウジング社) (第7分科会)

参加させていただきとてもよかったです。

最初はこの全国集会の母体がよくわからず、どういう人たちがどんな経緯でこの集会を企画したのだろうかと思っていました。(今もそのことはあまりよくわかっていませんので教えてください。)

私が参加した第7分科会は、参加することは担うことであるという思いを皆さんがもっていて、街づくりの活動に、たくさんの共有できる悩みや、思いを抱いて活動してきた人達に会えたことがとても私にはうれしかったです。

また、私達のかんかん森の事業の進展が新しい担い手が育って自立していく事例として、他の皆さんをも力づけるということを感じて、私達もさらなる元気をいただいたような気がします。

これからの時代、消費者の協同組合、生産者(労働者)の協同組合は資本の論理によらない自由で自立した社会をつくっていくための重要な仕組みだとおもっています。様々なネットワークをつくり、豊かな暮らし方を実現する可能性が少し具体的に見えてきた気がしました。頑張りましょう。

#### 宮本みち子 (千葉大学教育学部) (第8分科会)

第8分科会に参加した労働者協同組合研修中の若い人(28歳)と大分話しましたが、

高卒、肉体労働の人たちの世界の厳しさを垣間見ました。

なかなかその実態に触れることができませんし、イベントに参加していただくことがむずかしという思いをもってきましたが、彼のような若者の問題こそ、問題というべきでしょうね。労協にがんばってもらいたいものです。

### 唐沢節子 (ワーカーズコレクティブ「子ども家・わらしこ」) (第9分科会)

全体会の冒頭挨拶に堂本知事が多忙な時間をぬってやってきてくれて、参加者を喜ばせ盛り上げてくれた。開催地の知事は初めてだそうで、さすがNPO立県千葉であることを証明した感があった。

報告者は私を含め6人だったが、すばらしいパワーをまぶしくたのもしく見つめた一日であった。どの事業所も独自性、他との区別、特質の強調を売りにしてきているところが共通であると思った。それと前へ前へと進む方向性の強さをつくづく感じた。自分は何が話せたのか心もとないが、外へ出て新しい情報に接するということがいかに大事かということ強く思って帰路についた。(『ワコレちば』No.38より)

### 柴山ゆり (介護地域情報誌「あったかいご」編集部) (第9分科会)

第9分科会では、後半は報告者と参加者とコメンテーター、コーディネーターが自由に発言し合うことができ、活発に意見交換が出来ました。出てきた意見にすぐに誰かが反応して発言する、といった双方向のいい分科会だったと感じました。

最初の各自の報告についてですが、もう少し事前に報告してほしい内容について絞って報告者に伝えていただいたほうが良かったかな、と思いました。

また、時間を大幅に超えて話をする方には、忠告をするなど、進行をスムーズに行って欲しいと思う部分もありました。

分科会の報告者は年齢層も幅広く、分野もいろいろでバラエティーに富んでいたもので、私自身とても参考になり、楽しかったです。この出会いをまた生かしていくことができればと思っています。どうもありがとうございました。

### 今関百合 (女性農業家) (第9分科会)

予想通り私は分科会に参加された皆様が見望するような報告は全然できませんでした。

しかし農村での働き方や暮らし方しか知らなかった私が 都市で協同という仕組みで働いている女性達の取り組みを知ったことはとても勉強になりましたし今後の参考にしたいと思いました。

若者の働き方や 食と農といった分科会ではたぶん得られなかっただろうという違った充実感を得ることができました。

ふだん、こういったシンポジウムではどうしても自分の興味のある 農ということだけにこだわってしまいましたが今回は生活者の方々のイロイロなお話をうかがう事ができて本当に良かったと思います。

この集會に誘っていただいたコトを心より感謝いたします。

### 森田昌男 (千葉県環境生活部県民生活課NPO室長) (第10分科会)

長引く不況、あいつぐ倒産やリストラ、戦後最大の失業率…。近年、なかなか明るい話題は聞こえてきません。社会全体が活気を失いかけている。こうした時代だからこそ、もっと元気を 出さなければなりません。

今回の集会に参加してみて、地域に暮らす人々が地域を再生しようと福祉などの分野で人々が必要とする仕事を自分たちの手でおこし始めている。そして、人々のそうした活動が大きな波となり、社会の中に広がりつつあることを実感することができました。

現在、千葉県では「NPO 立県千葉の実現」を重要な政策課題に掲げ、NPOなど市民の自主的な活動が日本で最もやりやすい県を目指しています。これからも皆さんの元気を支えるため、様々な施策を展開してまいりますので、どうか御理解と御協力をお願いします。

#### 川崎あや（NPOまちづくり情報センター・かながわ）〔第10分科会〕

「新しい公共性をつくる」という大変壮大で、私たちNPOを支援する組織の目標でもあるテーマの分科会に参加させていただいたことにお礼申し上げます。

また、千葉のNPOや行政の状況、働き方を変えていこうとしている労協の具体的な取組などもわかり、大変勉強になりました。

ただ、働き方は新しくても、その仕事内容や財源においては、行政からの受託で、というお考えの方が少なくないことは、率直意外でした。

公共事業に依存してきた日本社会の「公共性」も転換していく必要があると思います。

非営利セクターが新しい職域の開拓や地域の経済システムの転換を図るような仕事

づくりや事業展開を行っていくことを期待したいと思います。

#### 田村光子（じょいんと）〔全体会司会・第8分科会〕

実行委員会の皆様、参加者の皆様、2日間大変お疲れ様でした。私自身、連日さまざまなかたちで参加する機会を与您いただき大変勉強になりました。

今回の集会の意義は「行政側との対話」ではないかと感じています。さまざまな会議や講演会等で「行政側のご意見」を伺うことはありますが、なかなかそこに「対話」がすすまない、または行政側の誠意ある参加すら得られないというのが多くの実状ではないでしょうか。

「参加」がなければ、対話も協同もすすみません・・・これからはこのような場に行政側がこぞって参加するくらいの千葉県になってほしい・・・いま「地域」になにが起こっているのかを敏感に察知できてほしい・・・それができて初めてNPO立県といえるのではないのでしょうか。

